

Car Seat-STD

(スタンダード)

取扱説明書

カーシートSTDを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

本製品は車内での姿勢の安定をはかることが目的の車載用姿勢保持具であり、一般に販売されているチャイルドシートとは異なります。必ずシートベルトを併用してご使用ください。

カーシートSTDの特長

- 調節スリングシートによる背張り調節
- 座モールドクッション
- 座面奥行調節機構
- バックサポートインナーパッドによるサポート調節
- 胸・肩ベルト、股ベルトを基本装備
- シートは通気性を考慮したメッシュ素材

■ オプション

- 身体のそばからしっかりサポートできるトランクサポートベルト。
- 角度調節用台座クッション。
- 上肢を支える姿勢保持のためのカットアウトテーブル。
- 座椅子としてお出かけ先の室内で食事や休息にも活用できるスタンド。＜リクライニング機構付き＞



目次

■ 安全にお使いいただくために	P1・2
■ シートベルト併用のこと	P3
■ 各部の名称	P3
■ 製品構成	P3
■ 使用前点検	P3
■ 各部の取り扱い	P4
■ 各ベルトの本体への取り付け方法	P5
■ 調節スリングシートについて	P6
■ バックサポートインナーパッドについて	P6
■ カットアウトテーブルについて	P7・8
■ トランクサポートベルトII型について	P9・10
■ 車両への取り付け方	P11
■ スタンドについて	P12・13・14
■ お手入れ・メンテナンス	P15
■ 仕様	P15

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。

- ❗ 必ず自動車の背もたれに固定して使用してください。
- ❗ 必ず自動車のシートベルトを併用してください。シートベルト着用の際は、シートベルトが首などにかからないように注意してください。シートベルトの取り扱いについては自動車に備え付けの説明書に従ってください。
(身体状況などによりベルトの着用が困難な場合は、処方者や取り扱い業者に) ご相談ください。
この製品は車内での座位保持を目的とした車載用姿勢保持具であり、国土交通省の認定等を受けた「チャイルドシート」ではありません。万一の事故の際の安全は保証いたしかねます。
- ❗ 処方されたベルト類、胸ベルト・股ベルト・肩ベルト等を必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方者や取り扱い業者に) ご相談ください。
- ❗ 姿勢を直したり、ベルトを調節したりするときは、必ず車を安全な場所に停止してからおこなってください。
- ⊘ 本人を乗せたままの放置はしないでください。
- ⊘ 本人を座らせた状態で抱えて移動しないでください。
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のいたみ、各部の破損など壊れた状態では使用しないでください。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートに引火したり、フレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあり大変危険です。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

注意

使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。

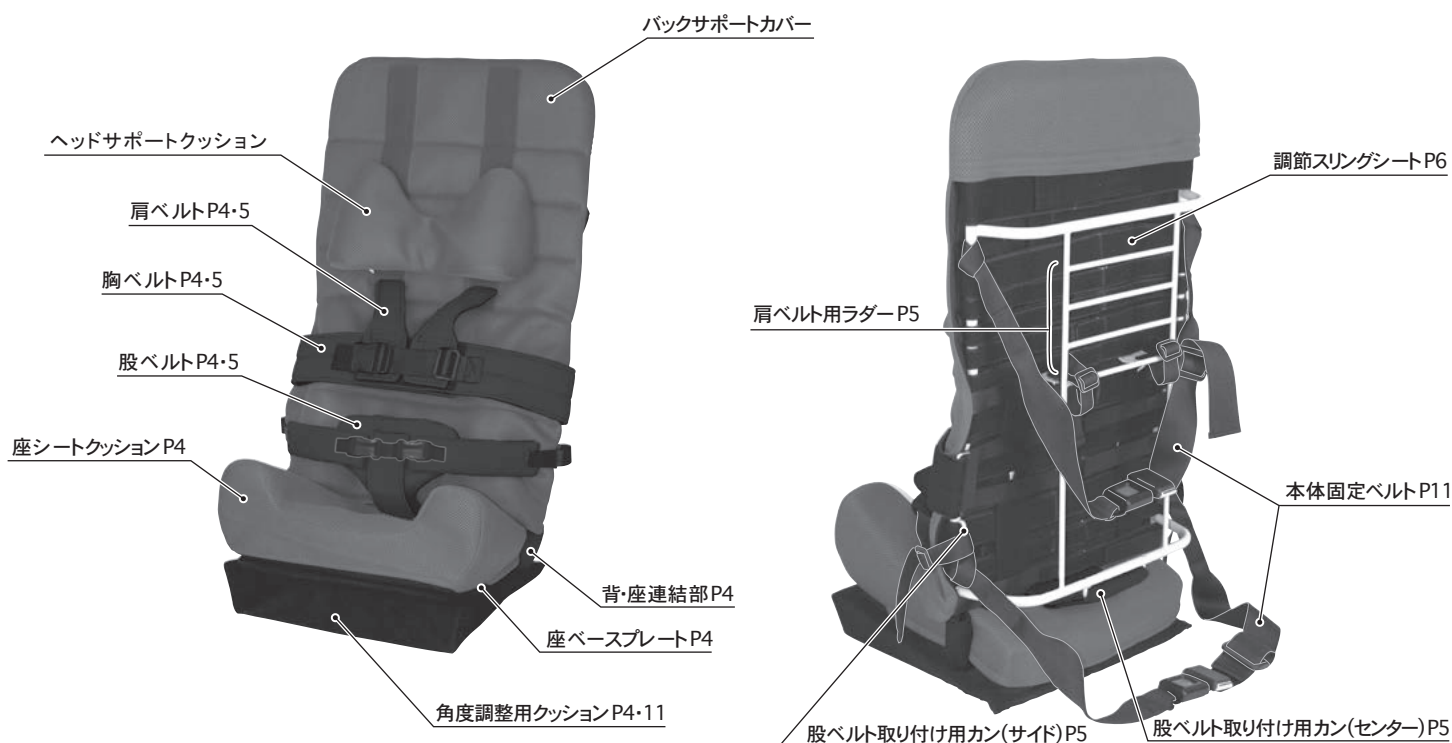
- ❗ 医師の処方で製作された場合。
 - ⊖ 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
 - ⊖ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 直射日光や車内の温度上昇などで本体、バックル、金具部分等が熱くなっていることがあります。すぐに本人を乗せると火傷や体調不良を引き起こすおそれがあります。乗せる前に各部に触れてみて、熱くないことを確認した上で使用してください。
- ❗ 可動部分がありますので、指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意してお取り扱いください。
- ⊖ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊖ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落したり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ⊖ 本人を座席や背もたれ等に立たせないでください。
- ⊖ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊖ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛けとして使用しないでください。
- ⊖ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊖ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊖ 背・座シートを外した状態で使用しないでください。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には、直ちに使用をやめ医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ⊖ カーシートSTDにスタンドを取り付けると座椅子としてご使用いただけますが、簡易的なものになります。本人を乗せたままで角度調整しないでください。足が床に接地する状態となりますので、床を蹴って転倒や移動してしまわぬよう十分にご注意し、本人を乗せたときには目を離さないでください。
- ❗ 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ⊖ からだに合わない状態で使用しないでください。本人の成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。
- ⊖ 入浴・プール等、水中での使用はしないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかる場所を避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）取り扱い業者にご相談ください。

シートベルト併用のこと

- この製品は車内での姿勢保持(安定)を目的としたものであり、万一の事故の際の衝突安全規準を満たした物ではありません。
- 安全のために必ず自動車のシートベルトを併用してください。
市販の小児用のシートベルト調整用金具等を利用するなどしてシートベルトを正しく着用してください。
シートベルト着用の際はベルトが首などにかからないように注意してください。
シートベルトの取り扱いについては自動車に備え付けの説明書に従ってください。

各部の名称



製品構成

	数 量
●基本フレーム	1
●調節スリングシート(背)	1
バックサポート インナーパッド	体 幹 左右1対 骨 盤 左右1対
●本体固定ベルト	2

	数 量
●シートユニット	バックサポートカバー 1
	座シートクッション 1
	ヘッドサポート クッション 1
	胸ベルト 1
	肩ベルト 左右1対
	股ベルト 1

オプション

●角度調整用クッション	P4・11
●カットアウトテーブル	P7・8
●トランクサポートベルトⅡ型	P9・10
●スタンド	P12・13・14
●ノンスリップマット	P14

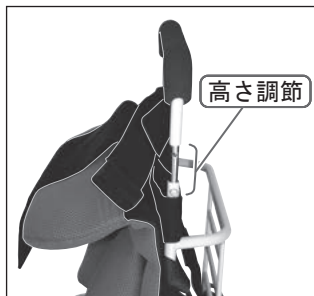
使用前点検

- ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- 車のシートへの取り付けが、ゆるみなく正しく固定されていることを確認してください。
- 背もたれ角度、座面(股関節)角度が正しく設定されていることを確認してください。
(※背・座面角度については、かかりつけの医療機関にたずねてください。)

各部の取り扱い

●背高さ調節

ヘッドパイプ部は、初期設定より40ミリ伸ばすことができます。ボルト・ナットによる差換え式です。



●背座両面角度の設定について

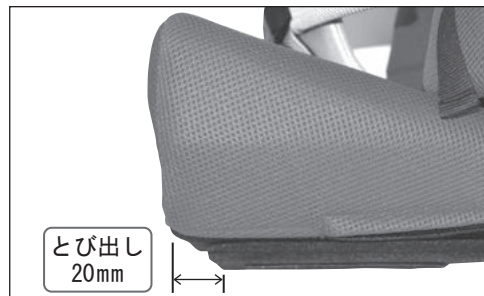
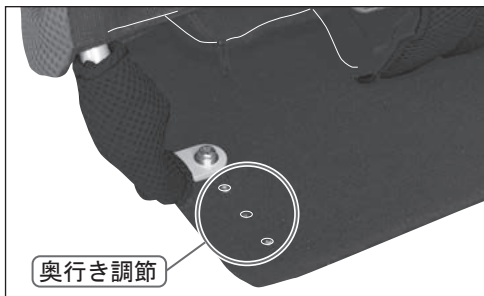
背角度は自動車のシートのリクライニング機構でおこなってください。カーシート全体の角度を設定する場合は、オプションの角度調整用クッションを用いて背座両面角（股関節）の角度も設定してください。



角度設定を変更する際は、固定ベルトを一旦外して角度設定した後に再び取り付けてください。

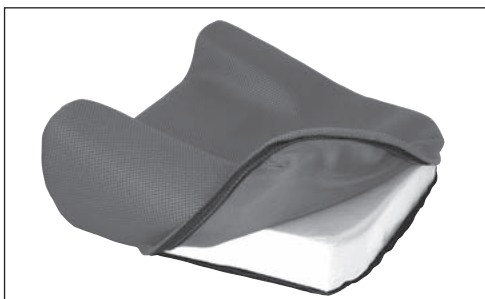
●座奥行き調節

背座連結部の座ベースプレート側に埋め込まれているナット部分で、20ミリごとに奥行きの調節がこなえます。座クッションのマジックの張り付け位置でも微調整がこなえますが、座ベースプレートからのとび出しを20ミリ程度にしてください。



●座シートクッションについて

座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカサポート（ウェッジ）と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて中のウレタンクッションを必ず取り出してください。

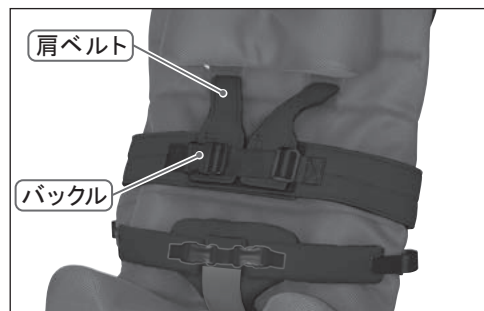


決して、クッションを入れたままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーとも乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。

ベルトの着用について

●胸ベルト

胸ベルトはマジック面で貼り合わせた後、肩ベルトを装着してから、正面のバックルを差しこんでください。体幹部の安定をはかります。



●股ベルト

股ベルトは正面のバックル（左右）を差しこんで装着してください。骨盤部の安定をはかります。



●肩ベルト

肩ベルト（左右）を胸ベルトのマジック面に、しっかり貼り合わせてください。肩の安定をはかります。

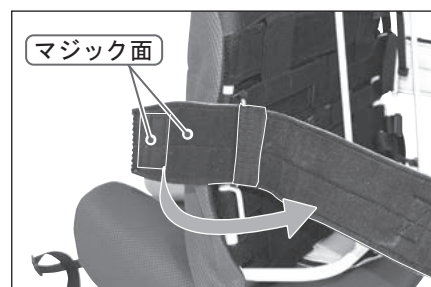
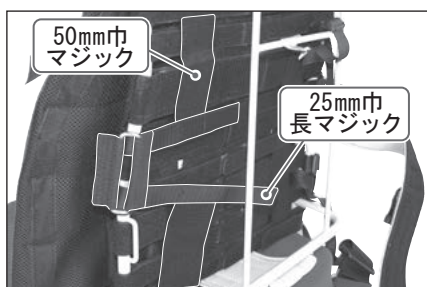
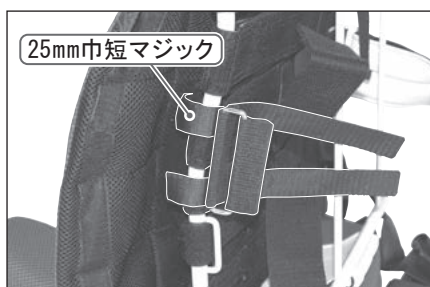


● ベルト類は安全のため、体調に影響がない範囲で必ず装着してください。
● ベルトに余裕があり過ぎると、自動車の加減速やカーブを曲がるなどのときに身体が安定せず、姿勢もぐずれやすくなります。身体に合わせて長さ調整を適切におこなってください。

各ベルトの本体への取り付け方法

●胸ベルト取り付け方法

胸ベルトは、胸ベルト専用取り付け用部品を用いてバックサポートフレームの背スリング面で固定します。



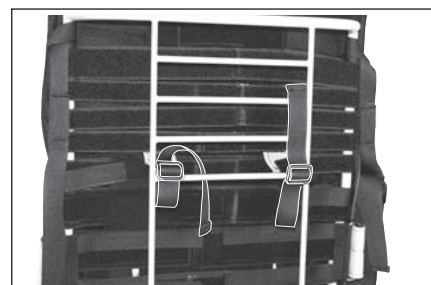
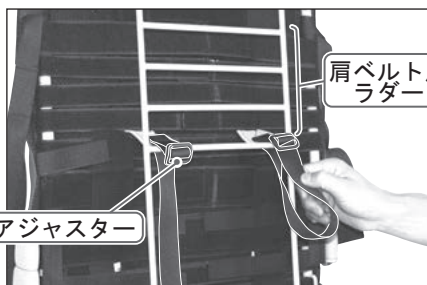
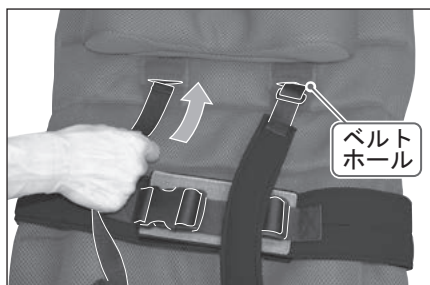
① 金属製のカンとマジックテープで構成された、胸ベルト専用取り付け部品（左右一対）で本体バックサポートフレームに固定します。25ミリ幅の短いマジックテープをバックサポートカバーとスリングシートに差し込み、スリングシートに貼り付けてください。

② 25ミリ幅の長いマジック付織テープはバックサポートフレーム裏のスリングシートに貼り付けて、織テープの上下にある50ミリ幅の両面マジックテープもスリングシートに貼り付けてください。この取り付け部品の位置を変えることで胸ベルトの高さ調節がおこなえます。

③ 胸ベルト本体は、金属カンに通し折り返してマジック面で貼り付けます。この折り返し部分で胸周りの長さ調節がおこなえます。

●肩ベルト取り付け方法

肩ベルトは、バックサポートカバーのベルトホールを通してバックサポートフレーム裏の肩ベルト用ラダーで固定します。



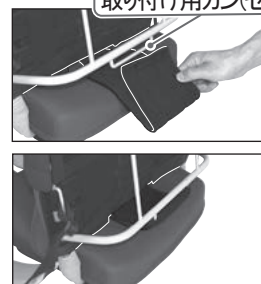
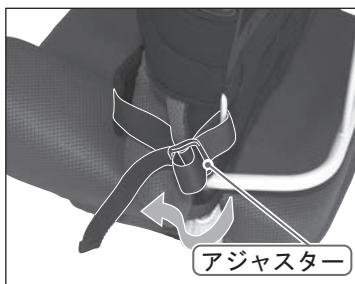
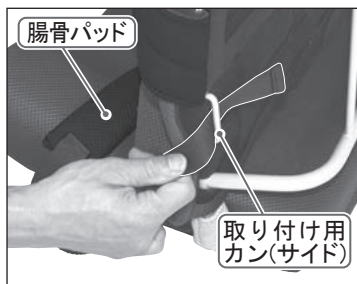
① 肩に近い高さのベルトホールに織りテープを通します。

② その延長線上に位置する肩ベルト用ラダーに織テープを折り返してアジャスターに通してください。

③ このアジャスターの部分で長さ調節がおこなえます。肩ベルトは、ベルトホールの位置と肩ベルト用ラダーのいずれかの高さで選ぶことで、体格や成長に合わせて肩ベルトの高さ調節がおこなえます。

●股ベルト取り付け方法

股ベルトは、本体フレームの外側（左右）にある取り付け用カン（サイド）とバックサポートフレーム裏下方のヌキパイプ中心にある取り付け用カン（センター）で固定します。



① 股ベルトの腰側をおさえる腸骨パッドから延びている織テープを取り付け用カン(サイド)に通します。

② 織テープを折り返してアジャスターで固定します。このアジャスターの部分で腰回りの長さ調節がおこなえます。

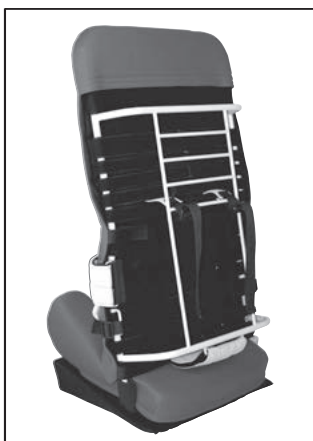
③ 股ベルト本体中心のマジックテープは座面とバックサポートカバーのすき間を通し、バックサポートフレーム裏の取り付け用カンで折り返してマジック面で張り合わせて固定します。この折り返し部分で前後の調節がおこなえます。



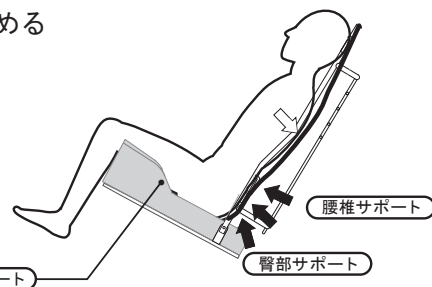
- ・使い始める前に各ベルトを設定するとき、また成長など身体状況の変化により長さ調節をおこなうときは、ベルトの取り付け方法に誤りや付け忘れが無いかの確認・点検を十分におこなってください。
- ・お手入れなどでベルトを一旦取り外して再び取り付けるときも、同様に取り付け方法の確認・点検を十分におこなってください。

調節スリングシートについて

バックサポートは帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。よりこまかく調整がおこなえるようスリングベルトの幅も細く、背スリングを2分割しています。座面は、座ベースプレート(板材)に外転サポート付のクッション成形によるモールドタイプを装着しています。



➡ 張る
⇨ ゆるめる



バックサポートは、①骨盤の前後の傾き(バックサポート下部)②体幹の前後の傾き(バックサポート中央～上部)③腰部の支え(バックサポート腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中の中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。



・長期間使用するうちにスリングシートのたるみが生じることがあります。
このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

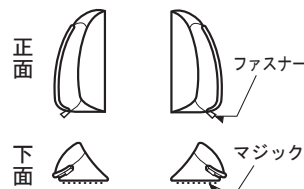
バックサポートインナーパッドの取り扱いについて

調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部を背もたれに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的でバックサポートインナーパッドを用います。

バックサポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付け、その上からバックサポートカバーを取り付けて使用します。

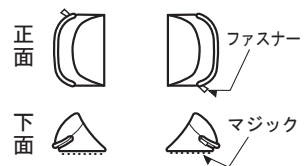
体幹パッド (2個)

- ・左、右別
- ・ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。



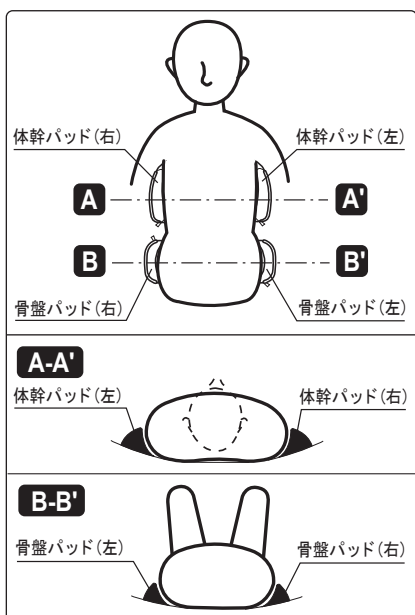
骨盤パッド (2個)

- ・左、右共通
- ・ファスナーがついている方が外側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。



① 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

② 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮してパッドを調節スリングシートに取り付けます。



【体幹パッド】

○側弯などの影響で姿勢の崩れに左右差がある場合には、取り付け位置・高さが左右非対称になる場合もあります。

○ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

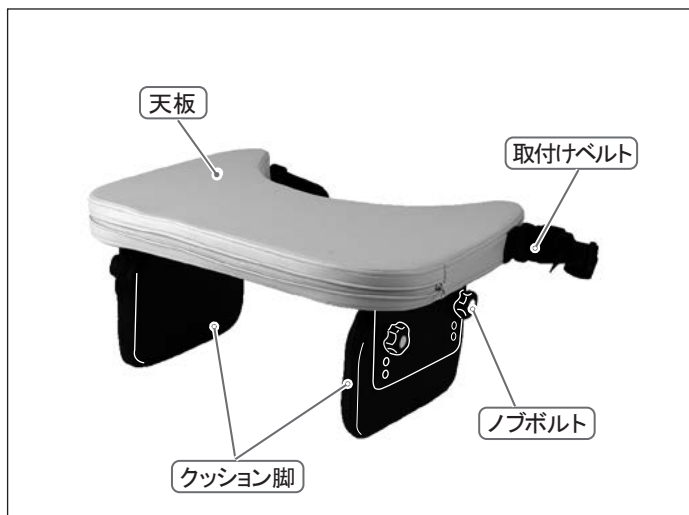
【骨盤パッド】

○骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

③ 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

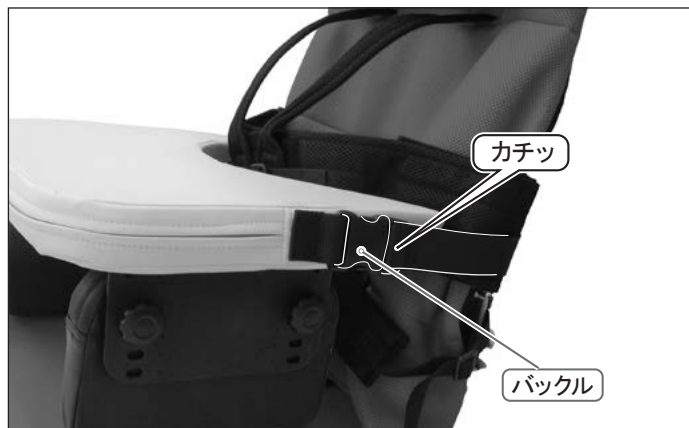
○パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

カーシート用カットアウトテーブルについて(オプション)



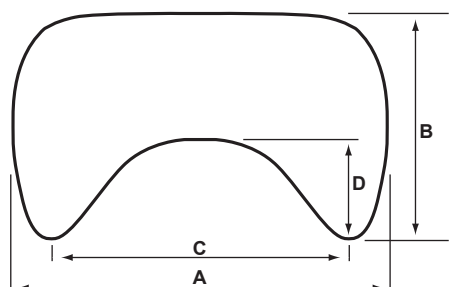
- 腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘をついて(前腕部を支持面に)脊柱を伸展するなど、姿勢保持を目的としたカットアウトテーブルです。
- 天板の表面はクッション張り(ビニールレザーカバー仕上げ)で、身体のかかわるようにカットアウトしています。
- 成長したときや前腕を受け支える場合は、4個のノブボルトの取付け位置を変えることで、テーブルの高さや角度を変更することができます。

●取付け方法



カットアウトテーブルをカーシートの座面上に置いてください。

カーシートに取り付けているバックルと天板側面のバックルを「カチッ」と確実に装着してください。



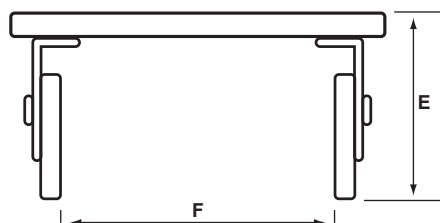
天板

- 天板はS、M、Lの3サイズあります。

(天板厚 40mm)

	A	B	C	D
Sサイズ	395	285	290	100
Mサイズ	435	320	330	120
Lサイズ	475	340	355	135

(単位: mm)



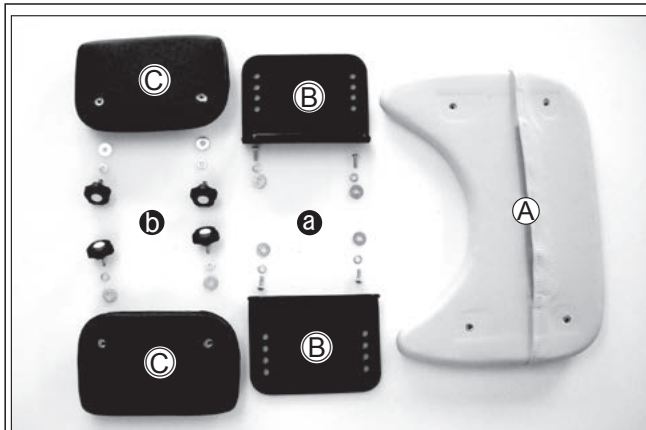
脚部

- 高さ調節付(ノブボルト)

	E(15mm ピッチ)	F
Sサイズ	160~190	245
Mサイズ	190~220	270
Lサイズ	220~265	290

(単位: mm)

●セット内容



①天板1枚

②クッション脚（2枚）

③脚高さ調整板2枚(樹脂製)

④取り付けビスセット

小ネジ (M6) 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

⑤取り付けノブセット

ノブボルト (M6) 4本
バネワッシャー 4個
平ワッシャー 4個

⑥取り付けベルト
(バックル式) 1本

※写真にはありませんが、脚高さ調整板に付いています。

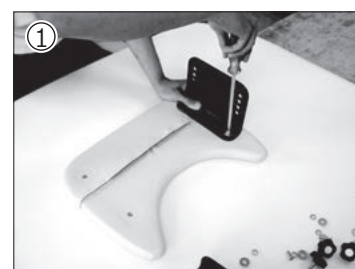
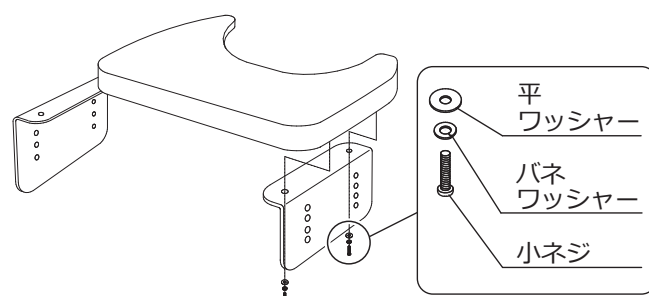
●組み立て方

①脚高さ調整板の取り付け

●L型の脚高さ調整板を天板の裏面に取り付けます。図のようにL型の長い面がテーブルの外側になります。ワッシャーをセットした小ネジをL型の短い面にある二つの穴に通し、天板の裏面側の穴に仕込んである埋め込みナットに固定してください。最初はドライバーを使わずに手で小ネジを回し、ネジの先端が埋め込みナットに正しくかみ合った感触を確かめてください。※1一つ目の小ネジが正しくかみ合ったら、2本目の小ネジも手回しで正しくかみ合わせてください。最後にプラスドライバー（3番）を使用し、両方の小ネジが脚高さ調整板に密着するまで締め込んでください。※2

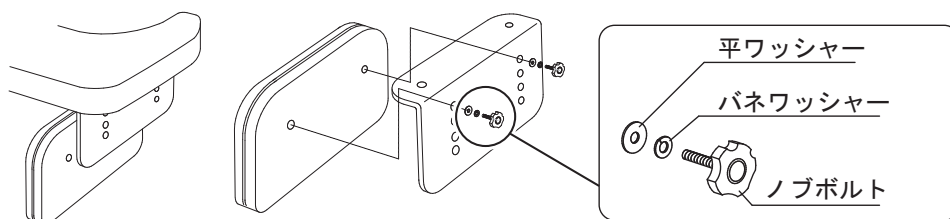
※1埋め込みナットは小ネジの入り具合を目視できないため、最初からドライバーを使って小ネジを回すと傾いて噛み込んでしまいがちです。斜めに入ってしまった小ネジを締め込んでも脚高さ調整板は固定できません。さらに無理をして強く回した場合、埋め込みナットの固定が外れて空回りし、使用できなくなることがあります。

※2一つ目の小ネジを先に完全に締めてしまった場合、二つ目の小ネジを埋め込みナットに合わせるのが極めて難しくなります。



②クッション脚の取り付け

●天板に取り付けた脚高さ調整板の内側面にクッション脚を取り付けます。クッション脚は角が丸くなっている側が上になりますので上下の向きに注意してください。図のようにバネワッシャーと平ワッシャーをノブボルトにセットし、外側から脚高さ調整板の穴を通してクッション脚の埋め込みナットにかみ合わせてください。小ネジのときと同様に2つのノブボルトのネジ先端が正しく入った感触を確かめてからそれぞれを最後まで締め込んでください。脚高さ調整穴のノブボルト取り付け位置をずらすことで、天板に傾斜をつけることができます。

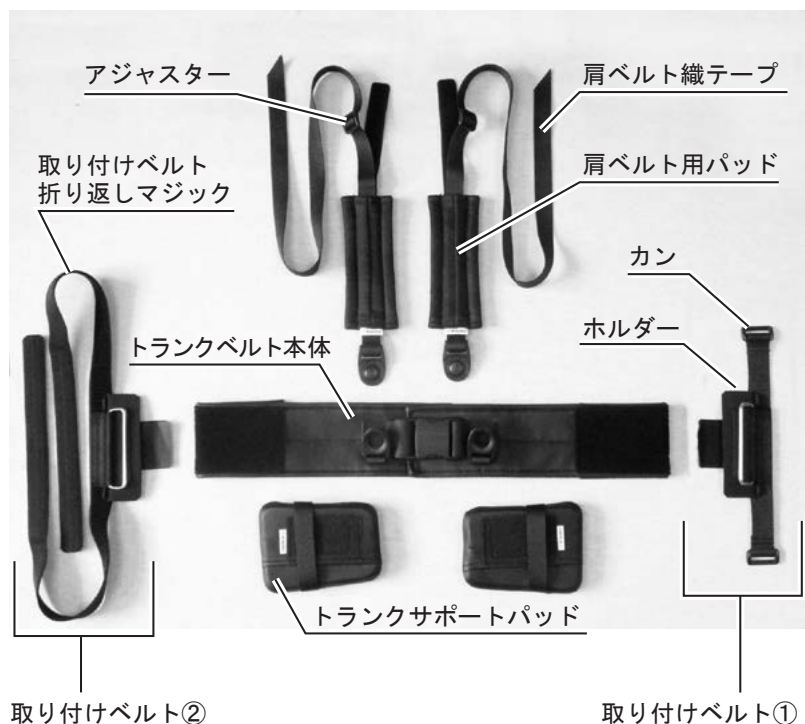


- 火気に近づけないで下さい。燃えたり、熱くなって火傷するおそれがあります。
- 直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- 踏み台や腰掛として使用しないでください。本機が破壊したり、バランスをくずして転倒するなどしてけがをするおそれがあります。
- 身体の前方に置かれるカットアウトテーブルは、車載時に、急ブレーキで使用者が前方へ飛び出しかけた場合、腹部を圧迫してしまうリスクも考えられます。ご本人の姿勢を安定させる為に必要不可欠となるケースでは、カットアウトテーブルの取り付けベルトは使用せず座面に載せるだけの設置にしてください。アクシデントの際に、テーブルは前方に飛び出すこととなりますが、腹部の圧迫を避けることができます。飛び出したテーブルが同乗者を直撃しないように、車椅子のすぐ前の席はできるだけ空けておくなどの注意をお願いします。

トランクサポートベルトⅡ型について(オプション)

トランクサポートベルトは身体により近い、バックサポートカバーのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

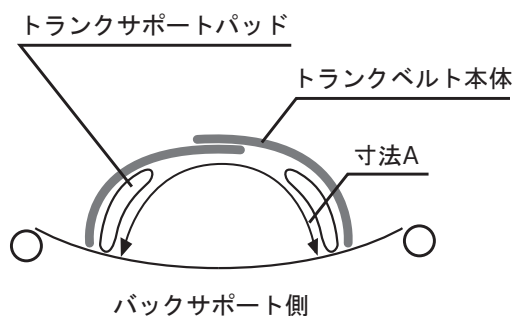
●各部の名称



●製品構成

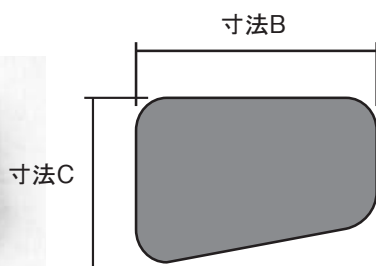
	個数
トランクベルト本体	1
トランクサポートパッド	左右 1 対
肩ベルト織テープ	左右 1 対
肩ベルト用パッド	左右 1 対
取付けベルト①	1
取付けベルト②	1

●トランクサポートベルト寸法



単位mm

	寸法A 最小値～最大値(推奨値)
S	330～440
M	330～440
L	400～500



	寸法B	寸法C
S	125	95
M	150	100
L	200	130

●取り付け方法

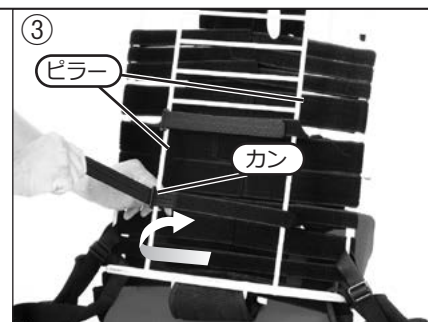
※基本的には、スリングシートの張り調節をおこなった後にベルトを取り付けてください。
スリングの調節・加減によってベルトの装着感が変わります。



取り付けベルトのホルダー部分を背スリングに貼り付けます。幅はバックサポートカバーのスリット幅に合わせ高さはサポートパッドを付けた状態をふまえて、パッド上縁と脇の下に指1本分の隙間が空くぐらいにしてください。



取り付けベルト①のカンと取り付けベルト②の折り返しマジックをスリングシートの合間から差し込み、後ろ側へ引き出してください。



バックサポートフレームの上下にわたっているピラーの外側から取り付けベルト②の折り返しマジックをまわして、取り付けベルト①のカンに通して固定します。折り返しマジック面はしっかり張り合わせてください。



取り付けベルトを固定したら、バックサポートカバーのスリットのダブルファスナーを上下から閉じてください。



トラंकベルト本体をホルダー外側から内側へ通しベルト内側のマジックで固定してください。マジック面はしっかりと貼り合わせてください。この折り返し部分で長さ調節をおこなってください。



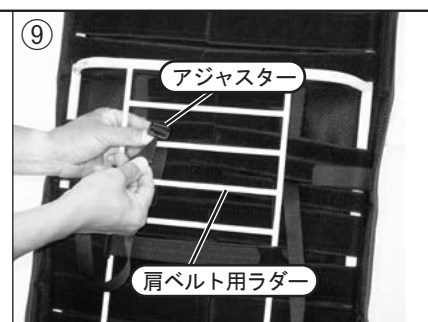
付属のトラंकサポートパッドをベルト内側に取り付けてください。



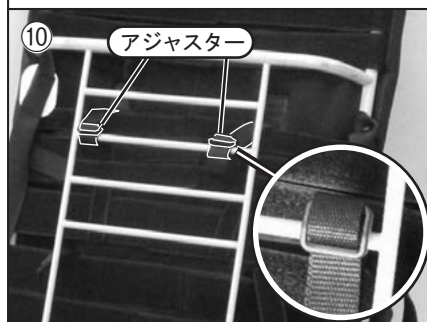
一旦、トラंकベルト本体を装着してください。正面のバックルでおこなってください。



最も肩に近い高さのベルトホールに肩ベルト織テープを通します。



バックサポートフレーム裏の肩ベルト用ラダーの4段のうち、ベルトホールの高さに最も近いラダーに織テープを折り返して、アジャスターに通してください。



このアジャスター部分で肩ベルトの長さ調節がおこなえます。肩ベルト用ラダーへの取り付け位置によって、体格や成長に合わせて高さ調節がおこなえます。



肩ベルトの装着は、胸ベルト正面に縫い付けてある左右のバックルでおこなってください。



取付け完了です。

車両への取り付け方

※自動車の車種によってシートの大きさや形状、リクライニング機構の操作が異なりますので、取り付けに際しては自動車の取扱説明書や注意事項などをご確認ください。



① 本体を車のシートに載せてください。



② 車のシートのリクライニング機構で背の角度を決めてください。



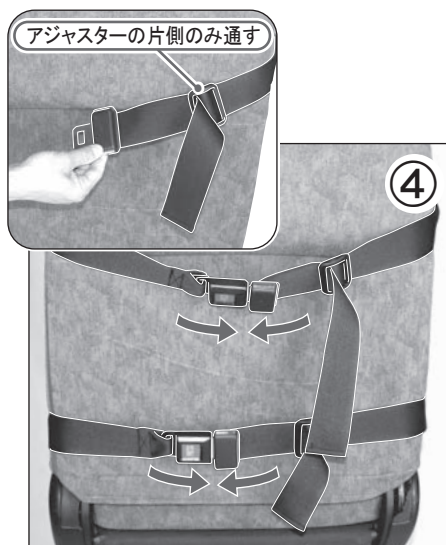
背の角度設定は、医療機関のスタッフ、取り扱い業者に相談してください。



③ 背・座両面角度の設定を確認してください。必要に応じて角度調整用クッションを使用してください。



背・座両面角度の設定は、医療機関のスタッフ、取り扱い業者に相談してください。



④ アジャスターの片側のみ通す
本体固定ベルトをアジャスターの片側のみに通した状態にして本体固定ベルト（2本）を固定してください。



⑤ 固定ベルトを引っ張って締めてください。



ゆれやぐらつきがあるときは、一旦本体固定ベルトのバックルをはずしてベルトを締め直してください。

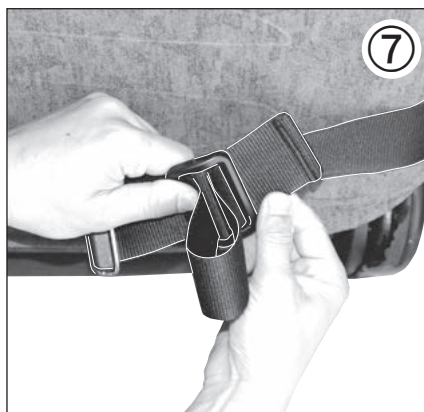


⑥ 本体がしっかり固定されていることを確認してください。



固定ベルトは、ずれにくいところ、抜け落ちないところ、また、シートのリクライニング装置など機構に干渉しないところにまわしてください。まわす長さに変化のない一定のところを最短距離で固定してください。

クロスフレームパイプに取り付け



⑦ 一旦、バックルを外し、ベルトの長さが変わらないように注意して、本体固定ベルトの余りをアジャスターに通してください。



⑧ 再度、ゆれやぐらつきを確認してください。ゆれやぐらつきがあるときは、一旦本体固定ベルトのバックルをはずしてベルトを締め直してください。

◎ベンチシートの場合



◎ベンチシートなどの横に長いシートの場合には、固定ベルトを縦方向（クロスフレーム）に取り付けて、シートに固定することもできます。

スタンドについて(オプション)

お出かけ先の室内で食事や休息などに座椅子として活用できます。リクライニング機構がありバックサポート角度調節ができます。今お使いのカーシートSTDにも取り付けられます。

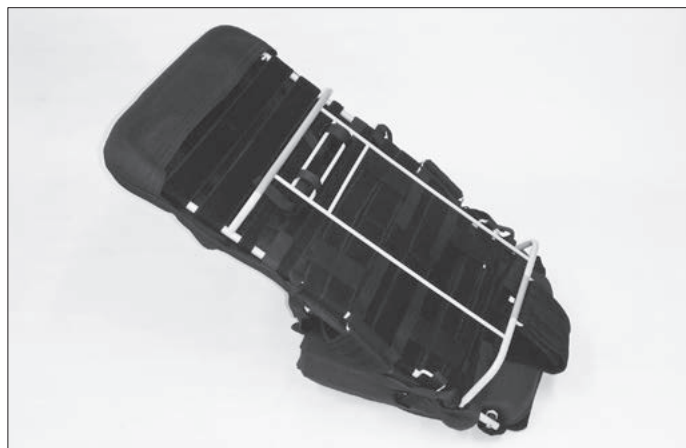
●各部の名称



●スタンドの展開

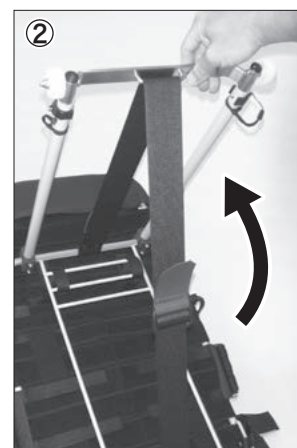
1. 準備

安定した場所にバックサポートの背面が見えるように置きます。



2. スタンドの展開

- ① ベルトを固定しているマジックテープを剥がします。
- ② スタンドを引き上げます。



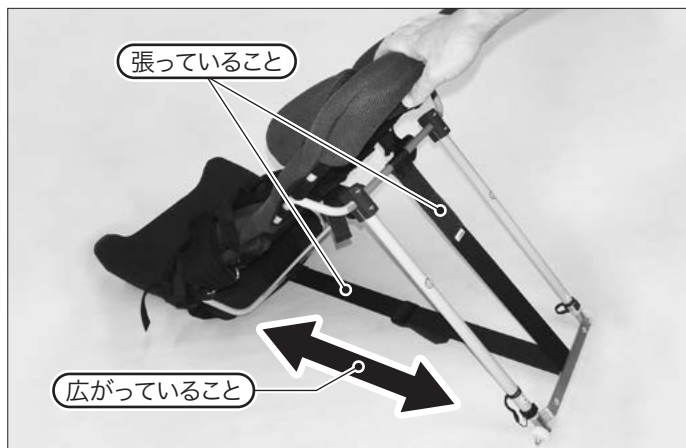
固定ベルトに破れやほつれなどの破損や異常がないことを確認してください。ほつれなどの異常に気付いたら直ちに使用を中断してください。異常がある状態で使用すると、最悪の場合ベルトが切断して事故につながる恐れがあります。

3. 設置

バックサポートを後ろに倒してスタンドを床に接地させてください。



バックサポートをしっかり下に押すなどして、固定ベルトが張ってスタンドがしっかり広がっていることを確認してから使用してください。



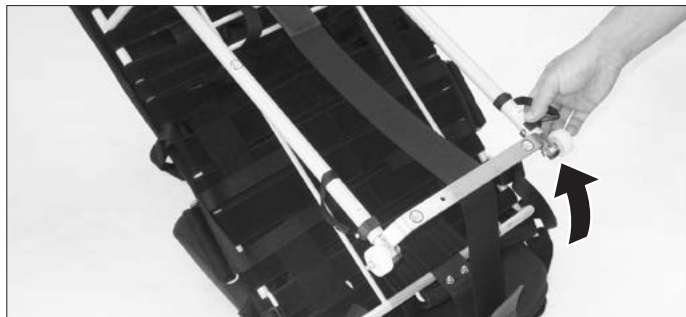
●リクライニングの調節

1. 準備

安定した場所にバックサポートの背面が見えるように置き、スタンドを少し持ち上げます。



本人を乗せたままリクライニングの調節をおこなうと急に倒れたり、いきおい余って起こしすぎたりして危険です。本人が乗っていない状態で調節してください。



2. スタンドの長さを調節する

①ロックピンを引き抜いて外します。反対側も同様に外します。

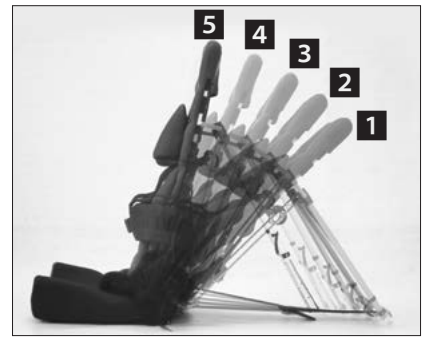
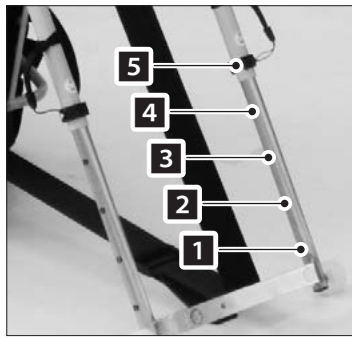


②フレームをスライドさせて長さを変更します。希望するリクライニング角度に応じた穴位置(角度は後述)に合わせます。次のページの中の写真はフレームを最も伸ばしてリクライニングを最大に起こした状態です。リクライニング角度設定の穴は5段階で5個の調節穴があります。



※リクライニング角度の設定

- 穴位置 **1** …… リクライニング角度 = 45度
 穴位置 **2** …… リクライニング角度 = 52度
 穴位置 **3** …… リクライニング角度 = 59度
 穴位置 **4** …… リクライニング角度 = 68度
 穴位置 **5** …… リクライニング角度 = 80度



③ロックピンを差し込みます。左右とも外管パイプからロックピンが少し飛び出るまでしっかり差し込んでください。スタンドを床に接地させて、バックサポートをしっかり下に押してください。固定ベルトが張ってスタンドがしっかり広がっていることを確認してから使用してください。



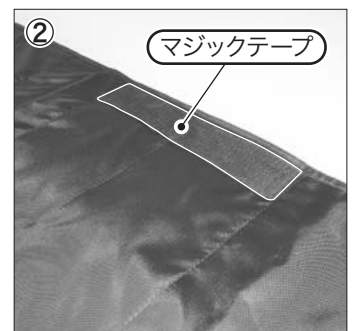
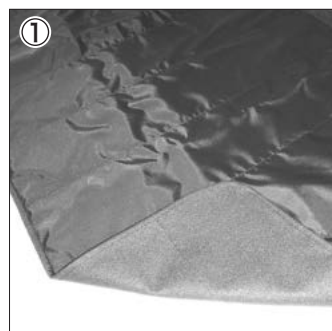
使用時には、ロックピンを左右とも奥まで差し込んでください。ピンの差し込みが浅いと使用中に外れて抜け落ちたり、片側だけに想定以上の負荷がかかって破損し、ロックピンが抜けなくなったり、急にリクライニングが倒れたりして事故につながる恐れがあります。

●ノンスリップマットについて

カーシートSTDを座椅子として使用すると、場合によってはこども本人が床を蹴るなどして、転倒や移動してしまうことによる事故の可能性があります。その対策として、ノンスリップマット(オプション)を用意しています。床側になる裏面には滑りにくい布地、足側の表面には滑りやすい布地(①)になっています。

そして表面にはマジックテープを縫い付けています(②)。カーシート本体の座ベースプレート裏側と貼り合わせて使用してください。こうすることで、本人が座っているカーシート自体でマットを押さえつける状態となります。足と床の間にこのマットを挿入することで床を蹴っても、マットの表面を足が滑ることになり、転倒や移動を抑えることができます。

ノンスリップマット



完全に危険を排除できるものではありませんので、マットを使用された場合でも、本人を乗せた時には必ず目を離さないでください。

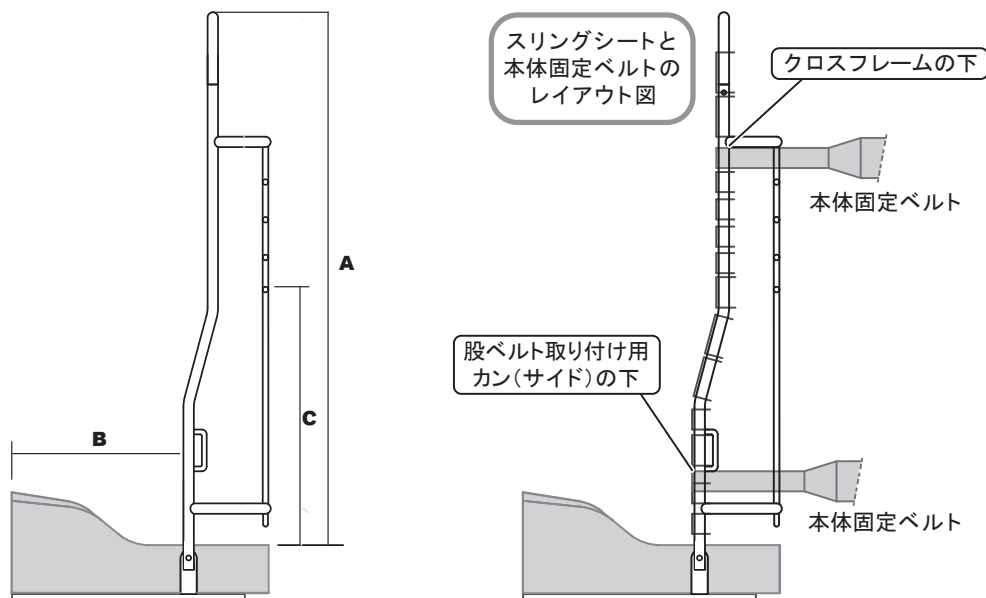
お手入れ・メンテナンス

- ネジのゆるみやガタがでてきたときは、取り扱い業者にご相談ください。
- シートを洗うときは、マジックテープが内側になるように二つ折りにした状態で、きれいに折りたたみ、軽く押し洗いか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。ファスナーを開き、中のクッションを取り出してからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- 泥や汚れを落とすときは、強く絞ったタオルなどで拭いてください。
- フレームは、直接水をかけて洗わないでください。各部に錆が発生して故障や事故につながる恐れがあります。フレーム塗装部分をたわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
- 調整や修理などは、まず処方された医療機関もしくは、取り扱い業者にご相談ください。
- バックサポートカバー・座連結部のカバーは、フレーム本体を覆うように作られています。フレーム本体が露出しないようにしっかり 被せてください。
- 保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

仕 様

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
背 幅	mm	390	390	410
座 幅	mm	390	390	420
背高さ (A)	mm	664~704	749~789	781~821
座奥行き (B)	mm	203~303	263~343	293~373
肩ベルト取付パイプ高さ(C)	mm	331~451 (30mmピッチ4段階)	371~491 (30mmピッチ4段階)	444~564 (30mmピッチ4段階)
全幅×全長×全高(W×L×D)	mm	420×325~400×760~800	420×395~430×835~875	450×425~460×860~900
基本重量	Kg	約 4.5	約 4.8	約 5.1
調節スリングシート		ナイロン100%		
シートユニット		ポリエステル100%		
対象身長	cm	約90~110	約100~130	約120~140

※基本重量=基本のシートユニットを取り付けた場合の重量



製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11

TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037

E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2024.08